

重要テーマ（マテリアリティ）一覧

13の外部環境分類	#1 コーヒーをはじめとする嗜好飲料サイエンス	#4 技術革新	#7 紛争・戦争、テロ、暴動、社会不安	#10 パンデミック、自然災害	#13 ガバナンス・コンプライアンス
	#2 ITセキュリティ、知的財産	#5 人的資本・人権	#8 財務・会計・税務	#11 消費者嗜好・価値観	
	#3 ブランド	#6 気候変動、自然資本・生物多様性、資源枯渇	#9 非財務データ活用	#12 人口増加、高齢化、途上国への資本流入	

AGFグループ重要テーマ (マテリアリティ)	2030年 機会○・リスク●	2030年に向けた重点取組 (色文字=最重要課題)	取組事例(代表的なもの)	2030年目標	貢献できる SDGsのゴール	貢献できる SDGsの ターゲット
 ココロとカラダの健康	<p>#1 ○ココロの健康・Well-beingの重要性の高まり。嗜好飲料成分の健康効果への期待。 ●嗜好飲料の健康影響や超加工食品に対する否定的見解が広がる。自然的健康飲料が生活浸透する。</p> <p>#2 ○スペシャリティ技術開発&特許化による競合優位性。</p> <p>#9 ○技術革新によるココロの健康可視化&無形資産化。 ●社会価値評価水準の高まりによる競合劣位。</p> <p>#11 ○ココロの健康・Well-beingの重要性の高まり。 ●多様な(パーソナル)需要への対応の遅れ。カフェインのネガティブイメージの高まり。</p> <p>○海外市場(新興国)での嗜好品需要増。</p> <p>#12 ●世界でのコーヒー需要の高まりによる生豆逼迫。国内少子高齢化による需要減。海外既存市場の高齢化による需要減。</p>	<p>#1 健康価値強化</p> <p>#1 嗜好飲料と「ココロの健康」の相関性見える化</p> <p>#2 スペシャリティ技術革新</p> <p>#9 顧客情報の蓄積・分析</p> <p>#11 嗜好多様化への対応</p> <p>#11 体験価値の提供</p> <p>#12 国内少子高齢化への対応</p> <p>#12 海外含む新市場への参入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆コーヒー豆マンノオリゴ糖の活用 ◆減糖減脂商品の開発 ◆ココロに寄り添うメッセージ付き商品の開発販売 ◆災害被災地へのドリンクバー提供 ◆フードバンクへの長期滞留品等商品提供 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コーヒー豆マンノオリゴ糖などコーヒーの健康価値の拡大 ◆嗜好飲料とココロの健康(メンタルヘルス)との相関性可視化 ◆嗜好の多様化に合わせた効率的な多品種生産体制強化 ◆パーソナル商品(スティック/ドリップ)のメッセージ付与100% ◆3R(Relax/Reset/Refresh)体験価値提供の新規事業検討・拡大 		<p>1.1</p> <p>2.1</p> <p>3.2</p> <p>11.5</p> <p>17.17</p>
 人とのつながり	<p>#3 ○サステナブル取組、ココロの健康イメージが国内・海外で広まる。 ●調達や嗜好飲料成分に対する否定的見解が広がる。海外戦略、価格戦略のミスリードによるブランド棄損。</p> <p>#5 ●法令対応遅れ。</p>	<p>#3 ステークホルダーコミュニケーション</p> <p>#5 バリューチェーン・サプライチェーン全体での人権配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆お客様とともに安心品質No.1を目指した商品開発、改善 ◆地域の方々と絆を深めるイベント実施 ◆国内外のコーヒー生産地への産業支援 ※徳之島コーヒー生産支援PJ ◆味の素グループ人権ガイドラインの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ◆感動品質の提供によるお客様の信頼No.1 ◆被災地支援継続 ◆フードバンク支援継続 		<p>4.4</p> <p>5.2</p> <p>5.5</p> <p>5.6</p> <p>8.4</p> <p>8.5</p> <p>17.17</p>
 地域環境との共生	<p>#4 ○GX推進による農業・食料分野でのソリューション進展。</p> <p>○気候変動対策資金および農家支援に向けた政策支援の拡充。再生農業に資する製品・ソリューションの需要拡大。インスタントコーヒー戦略による資源有用。プラ削減機運&マイボトル利用促進。高気温化によるアイス需要拡大。複数購買化による安定供給。</p> <p>#6</p> <p>#7 ●原材料の調達難、コスト増による生活者への商品提供難。エネルギー政策やインフレ進行による燃料コスト増。高気温化によるホット飲用需要減少。</p>	<p>#4 GX推進による持続可能性向上</p> <p>#6 気候変動対策</p> <p>#6 自然資本・生物多様性保全</p> <p>#6 原料の持続可能な調達</p> <p>#6 原料の有効活用化</p> <p>#7 エネルギー資源の持続可能な調達</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆再エネ活動、省エネ促進 ◆廃棄物の100%リサイクル化 ◆物流効率化とフードロス削減 ◆ガイドラインに沿った環境配慮包装材設計 ◆容器包装3R(リデュース/リユース/リサイクル)推進による省資源、省プラスチック化 ※ほっとするエコマークでのエシカル消費促進コミュニケーション ◆4C認証のコーヒー豆の購買 ◆FSC®認証の容器包装紙の購買 ◆コーヒー豆の調達ガイドラインの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ◆味の素グループ環境負荷50%削減に貢献 ※2018年比 ◆モーダルシフトの推進 ◆有効利用をされずに環境に流出するプラごみをゼロに ◆持続可能な調達基準に沿ったコーヒー豆調達100% ◆インスタントティー事業の拡大 		<p>2.4</p> <p>13.1</p> <p>2.a</p> <p>13.3</p> <p>6.3</p> <p>14.1</p> <p>6.4</p> <p>15.1</p> <p>6.6</p> <p>15.2</p> <p>7.2</p> <p>15.4</p> <p>7.3</p> <p>17.17</p> <p>9.4</p> <p>12.2</p> <p>12.4</p> <p>12.5</p> <p>12.8</p> <p>12.a</p>
 TEAM AGFの強化	<p>#2 ○知的財産を事業に積極的に活用することで、競争優位性と事業成長に繋がる。ITセキュリティ強化による顧客信用獲得。 ●情報漏洩リスク。</p> <p>#4 ○DX推進による新事業価値創造。AIを活用した早期リスク対策。 ●インベーション進化への対応遅れによる事業機会損失。DX投資や人材確保難。</p> <p>○オープン&フラットな風土による組織間連携強化による成果創出。戦略的人事施策による人材活性&会社エンゲージメントの向上。</p> <p>#5 ●ハラスメント横行。法令対応遅れ。外部環境の不安定継続による人材流出・確保難。</p> <p>#8 ●資本コストの急上昇、為替の乱高下による収益影響。</p> <p>#9 ○タレントマネジメントシステム導入による人材データ一元管理。</p> <p>#10 ●大規模自然災害やパンデミックによる事業中断。</p> <p>#13 ○ポリシー・規範浸透によるガバナンス強化。 ●コンプライアンス違反による事業中断。</p>	<p>#2 知的財産の構成を確立</p> <p>#2 ITセキュリティ強化</p> <p>#4 DX・AI活用によるビジネス強化</p> <p>#5 人的資本の最適化</p> <p>#5 多様性の尊重(DEI)</p> <p>#8 為替変動への対応</p> <p>#8 投資最適化</p> <p>#9 人材データ一元管理</p> <p>#10 オールハザード対応BCP構築</p> <p>#13 コーポレートガバナンス強化</p> <p>#13 コンプライアンス遵守</p> <p>#13 組織風土向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆働きやすく、働きがいのある職場づくり推進活動 ※健康経営優良法人認定の取得 ◆仕事と育児・介護の両立支援活動 ※プラチナくるみん認定、えるぼし最高位の認定取得 ◆ガバナンス強化、組織風土向上に向けた各種研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆健康経営優良法人の認定継続 ◆味の素グループポリシーを考える会、人権啓発勉強会の全社員受講 ◆DX人材育成研修受講者数拡大 		<p>5.1</p> <p>10.2</p> <p>10.3</p> <p>16.5</p> <p>16.7</p> <p>17.17</p>